米国統治下での復興・・沖縄

鉄血勤皇隊（てっけつきんのう）と女子学徒隊（がくと）及び南部戦跡等

太平洋戦争末期の沖縄戦では、戦況の悪化や長期化により兵士が不足してきました。そのため、日本軍史上初の14歳から17歳の学徒隊が動員され、各学校ごとに「鉄血勤皇隊」を編成し、陣地の構築、伝令や通信、さらには斬り込み隊として出撃をした人もいました。

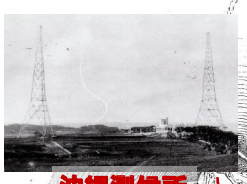
また、女子についても、全女学校の上級生は、学徒動員により看護要員として、野戦病院などに「女子学徒隊」として入隊しました。また、看護以外にも壕掘り、伝令、飯上げ、水汲みなども行っていました。学校によっては最前線まで出向くこともありました。

那覇市立商業学校
現：那覇商業高校

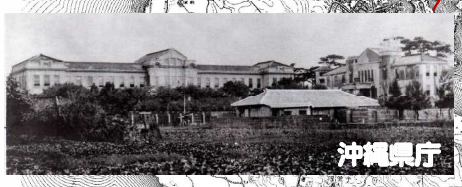
沖縄県立第二中学校
現：県立那覇高校

沖縄師範学校（女子部）
沖縄県立第一高等女学校

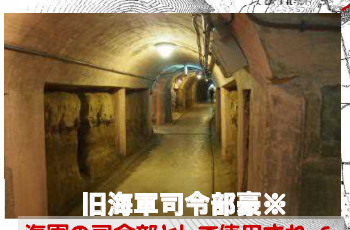
沖縄県立第一中学校
現：県立首里高校


沖縄測候所

沖縄師範学校


沖縄県庁

天ぷら坂の壕※


旧海軍司令部壕※

潮平権現の壕※

白梅の塔※

轟の壕（沖縄県庁）※
島田知事が県庁を解散したところ。

富盛の石彫大獅子 ※

市役所

ナゲーラ壕
瑞泉学徒隊らが陸軍野戦病院の看護に動員された。

県庁・警察部壕
県庁と警察部がここで指揮を執ったが一月余り後に移動した。

飯上げの道
看護に動員された女学生たちが砲弾の中、水や食料を運んだ坂です。

陸軍病院壕（ひめゆり学徒隊）
日本軍は、陸軍病院壕群を構築し、ひめゆり学徒らが負傷兵の治療にあたりました。

第24師団第2野戦病院壕（積徳学徒隊）
軍医、衛生兵など194名の職員に積徳女子学徒（56名中→25名）が配属、患者600余名が収容されていた。

壕の完成翌日に空襲があり、この壕逃れた住民のほとんどが助かった。

糸数マブチラガマ
自然洞窟（ガマ）は、元々住民の避難場所だったが、ひめゆり学徒隊が配備され全長270mのガマは負傷兵600人で埋め尽くされ、住民200人と雑居状態となった。

前川民間防空壕群
川沿い1kmに60個の民間人が掘った避難場所。600人が避難していたが、陸軍の南下を追いかけるよう移動し多くが犠牲となった。

防空監視哨

ヌヌマチガマ（白梅学徒看護隊之壕）
県立第二高女の学徒隊が野戦病院として使われていたこの壕で看護にあたっていた。

黎明之塔
第32軍司令官牛島満中将と長勇参謀長とを祀ってある。摩文仁が丘の司令部壕にて自決をした。

陸軍第3外科壕（ひめゆりの塔）
「ひめゆり部隊」が最後の看護活動を行っていた場所です。

摩文仁の丘（平和祈念公園）
毎年6/23には、県主催の沖縄全戦没者追悼式が行われる。

健児之塔
沖縄師範学校の生徒たちが、最後の後方任務についていた。

平和創造の森公園

2万5千分1地形図縮小　大正8年測量
写真画像:那覇市歴史博物館提供
※印の写真は、当院職員が撮影
記載した壕などについては一部です。

鉄血勤皇隊

学校名	部隊名	動員数	戦死者
沖縄師範学校	師範鉄血勤皇隊	386	224
県立第一中学校	一中鉄血勤皇隊・通信隊	371	210
県立第二中学校	二中鉄血勤皇隊・通信隊	144	127
県立第三中学校	三中鉄血勤皇隊・通信隊	363	37
県立工業高校	工業鉄血勤皇隊・通信隊	94	85
県立農林学校	農林鉄血勤皇隊	173	41
県立水産学校	水産鉄血勤皇隊・通信隊	49	23
那覇市立商業学校	商工鉄血勤皇隊・通信隊	99	72
開南中学校	開南鉄血勤皇隊・通信隊	81	70
県立宮古中学校	宮古中鉄血勤皇隊	不明	0
県立八重山中学校	八重山中鉄血勤皇隊	20	1
県立八重山農学校	八重農鉄血勤皇隊	不明	不明
合　計		1780	890

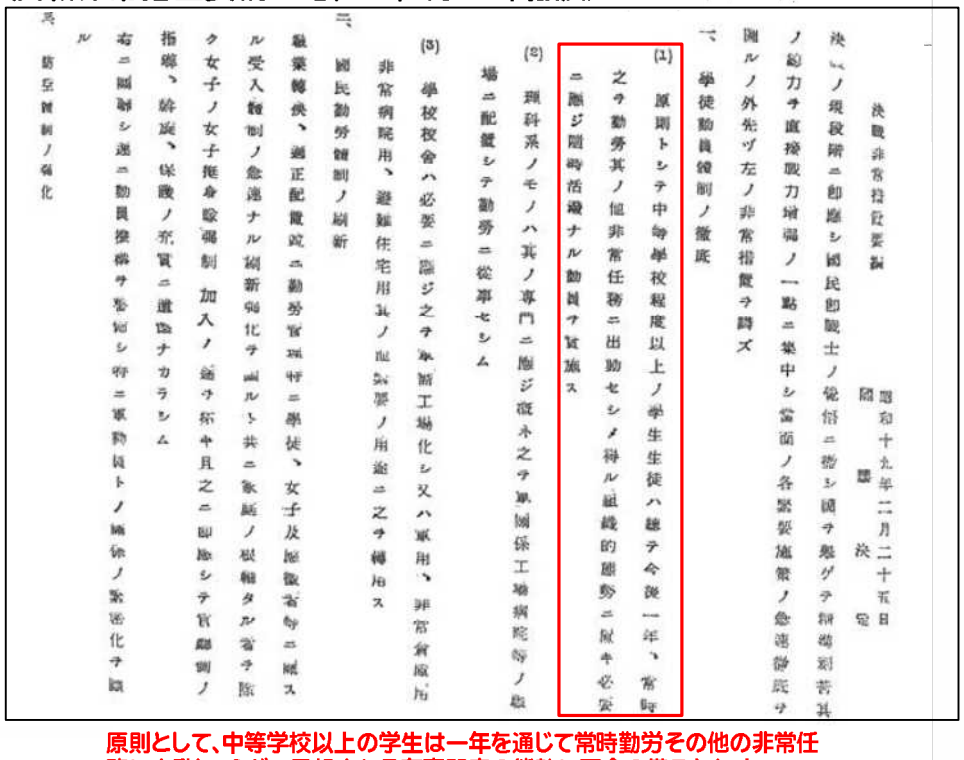
「歩く・みる・考える沖縄」より

女子学徒隊

学校名	学徒隊名	病院名	動員数（人）	戦死者（人）	備考
沖縄師範学校（女子部）	ひめゆり	沖縄陸軍病院	157	81	南風原陸軍病院 識名分室
県立第一高等女学校	ひめゆり	沖縄陸軍病院	65	42	一日橋分室 糸数分室／他
県立第二高等女学校	白梅	第24師団第一野戦病院	55	21	八重瀬岳本部壕 新城分院 東風平分院
県立第三高等女学校	なごらん	沖縄陸軍病院北部分室	10	1	（八重岳）
県立首里高等学校	瑞泉	第62師団野戦病院	61	33	首里のナーゲラ壕 浦添分室壕 仲間分室
私立積穂高等女学校	積徳	第24師団第一野戦病院	65	4	（豊見城城址）
私立昭和高等女学校	でいご	第62師団野戦病院	17	7	首里のナーゲラ壕 浦添分室壕 仲間分室
県立宮古高等女学校	宮古高女	第28師団第一・第四野戦病院	不明	不明	
県立八重山高等女学校	八重山高女	第28師団第三野戦病院	40	1	
県立八重山農学校女子	八重農	第28師団野戦病院	16	1	
		合　計	486	191	

「那覇市ホームページ」、「沖縄戦に従事した女子学徒隊資料」より

決戦非常措置要綱　昭和19年2月25日閣議決定


決戦非常措置要綱

昭和十九年二月二十五日
閣議決定

決戦ノ現段階ニ即應シ國民即戦士ノ覚悟ニ徹シ國ヲ擧ゲテ精魂刻苦其ノ總力ヲ直接戦力増強ノ一點ニ集中シ當面ノ各緊要施策ノ急速徹底ヲ圖ルノ外先ヅ左ノ非常措置ヲ講ズ

一、學徒動員體制ノ徹底

(1) 原則トシテ中等學校程度以上ノ學生生徒ハ總テ今後一年ヽ常時之ヲ勤勞其ノ他非常任務ニ出動セシメ得ル組織的態勢ニ置キ必要ニ應ジ隨時活潑ナル動員ヲ實施ス

(2) 理科系ノモノハ其ノ專門ニ應ジ疎開之ヲ軍關係工場病院等ノ職場ニ配置シテ勤勞ニ從事セシム

(3) 學校校舎ハ必要ニ應ジ之ヲ軍需工場化シ又ハ軍用、非常倉庫、非常病院用、避難住宅用其ノ他緊要ノ用途ニ之ヲ轉用ス

二、國民勤勞體制ノ刷新

職業轉換、適正配置竝ニ勤勞官吏特ニ學徒、女子及傷痍者等ニ關スル受入體制ノ急速ナル刷新強化ヲ圖ルト共ニ家庭ノ根幹タル妻ヲ除ク女子ノ女子挺身隊制加入ノ途ヲ拓キ且之ニ即應シテ官廳側ノ指導、斡旋、保護ノ充實ニ遺憾ナカラシム

右ニ關聯シ速ニ動員操作要綱ヲ發令シ特ニ軍動員トノ關係ノ緊密化ヲ圖ル

三、國亞體制ノ強化

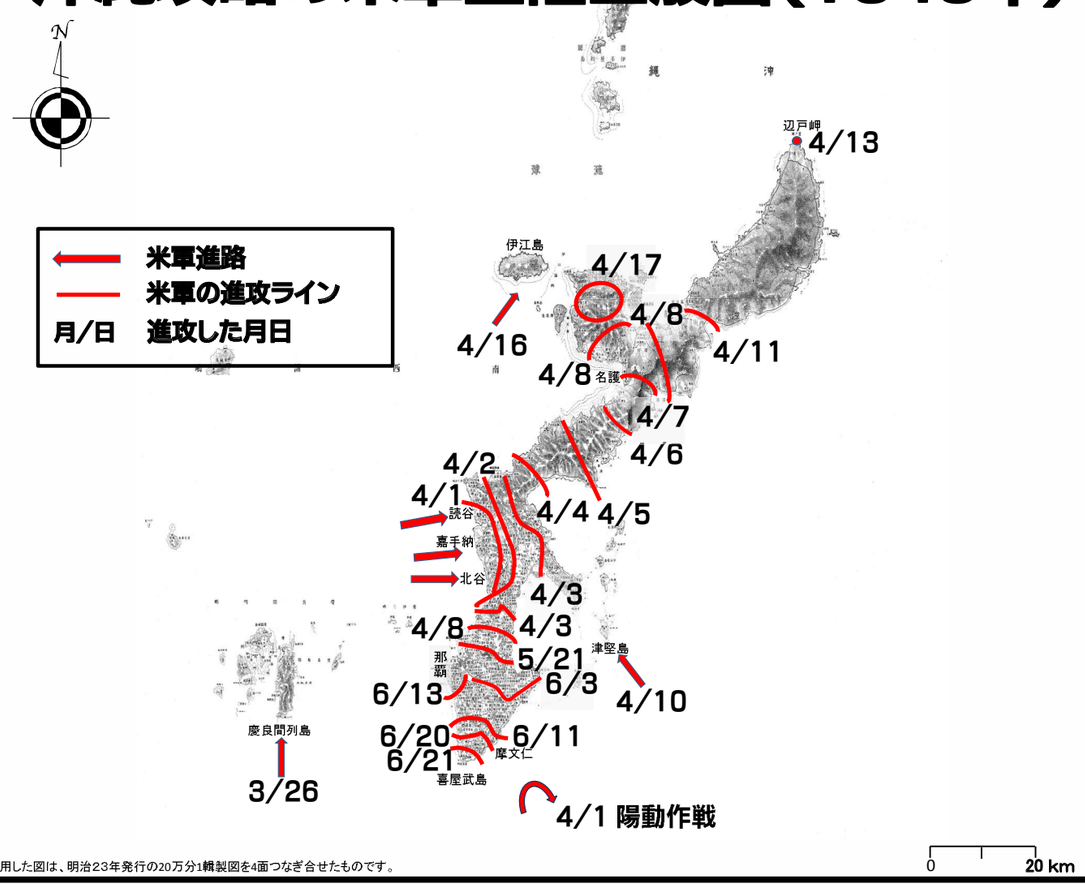
原則として、中等学校以上の学生は一年を通じて常時勤労その他の非常任務に出動し、やがて予想される有事即応の態勢に万全の備えをなす

アメリカ軍の侵攻

沖縄では、太平洋戦争末期に県民を巻き込んだ地上戦が行われました。米軍は、昭和20年(1945年)に入ると3月17日 硫黄島の日本軍守備隊を玉砕し、太平洋地区にあった全軍の戦力を沖縄攻略に向けて結集しました。3月23日沖縄全域の空襲が始まり、3月26日慶良間列島に上陸しました。

4月1日未明からは、およそ1,300隻の艦隊が集結し、延べ約15万の兵のうち、初日は約6万人の兵が沖縄本島西海岸の読谷・嘉手納・北谷に上陸を開始しました。そして米軍は初日のうちに嘉手納飛行場を占拠しました。日本軍は水際作戦を避け、持久作戦を取ったため米軍は無血の上陸でした。ここから約3ヶ月にわたる激しい戦闘が繰り広げられました。

沖縄攻略の米軍上陸全般図(1945年)



※使用した図は、明治23年発行の20万分1輯製図を4面つなぎ合せたものです。

沖縄戦の経過

昭和16年(1941年)
　12月8日 日本海軍、真珠湾への奇襲攻撃・太平洋戦争始まる
昭和16年(1941年)
　12月8日 日本海軍、真珠湾への奇襲攻撃・太平洋戦争始まる 米軍及英国に対する宣戦の詔書
昭和17年(1942年)
　6月5日　ミッドウェー海戦で日本海軍敗北
昭和18年(1943年)
　6月25日「学徒戦時動員体制確立要綱」決定
昭和19年(1944年)
　2月25日「決戦非常措置要綱」決定 決戦非常措置要綱
　3月22日 南西諸島に第32軍創設する
　7月7日 南西諸島の老幼婦女子・学童の集団疎開閣議決定する
　8月22日 対馬丸、悪石島付近で撃沈される
　10月10日 沖縄大空襲(早朝より米第38っ機動部隊の空母から飛び立った艦載機延べ1,300機が来襲、沖縄初空襲。那覇市の90% 1万軒、約5万人余りの市民が焼きだされた。)
　10月29日 第1次防衛召集(17歳から45歳までの健全な男子を防衛隊として召集)主に飛行場建設に従事
昭和20年(1945年)
　1月20日 第2次防衛召集(17歳から45歳までのほとんどの男子を召集)
　3月1日 沖縄県立第2中学校生徒の一部、部隊へ入隊する
　3月6日 国民勤労動員令公布
　沖縄県の15歳から45歳までの男女を「根こそぎ」動員する
　3月17日 硫黄島の日本軍守備隊、玉砕する
　3月20日 大本営「当面の作戦計画大綱」発令、沖縄作戦に重点を置くことを決定
　3月23日 米軍が沖縄諸島に空襲を開始する(艦砲射撃開始と同時に沖縄全域空襲)
　3月26日 米軍、慶良間列島に上陸する　地上戦が始まる
　4月1日 米軍が沖縄本島上陸開始、およそ1,300隻近い艦船、約15万の兵の内初日は約6万人の兵が読谷・嘉手納海岸に上陸する(上陸隊は初日の内に読谷、加手納飛行場を占領し米国海軍軍政府を設立)
　4月7日 南西諸島防衛のため沖縄に向けて出撃した戦艦「大和」が九州南方において撃沈される
　4月16日 米軍が伊江島に上陸する
　4月30日 4月1日に上陸以来、県民約12万人が米軍に収容される
　5月18日 安里の52高地が占領される(首里の日本軍部隊複廓陣地であることから日本兵約2,662人の戦死傷者と1,289人の神経疲労者を出した)
　5月31日 米軍が首里を占領する
　6月13日 日本軍の海軍部隊が壊滅する
　6月18日 米軍司令官バックナー中将が糸満市真栄里で戦死する
　6月19日 沖縄における日本軍の組織的抵抗がほぼ終わる
　6月22日「戦時緊急措置法」公布(6/23施行) 戦時緊急措置法
　6月23日 牛島第32軍司令官が糸満市摩文仁で自決する
　7月2日 米軍が沖縄作戦の終了を宣言する
　7月26日 連合軍が対日ポツダム宣言を発表する
　8月6日 広島に原爆が投下される
　8月8日 ソ連が日ソ中立条約を破棄する(9日侵攻開始)
　8月9日 長崎に原爆が投下される
　8月14日 ポツダム宣言の無条件受諾を決定する
　8月15日 昭和天皇による玉音放送
　9月2日 日本政府が東京湾のミズリー号で降伏文書に調印する
　9月7日 南西諸島の日本軍が降伏文書に調印する
昭和21年(1946年)
　1月29日 沖縄・宮古・八重山・奄美の行政権が日本から分離される
　8月17日 本土から第一回引き揚げ船が入港する
昭和27年(1952年)
　4月28日 サンフランシスコ講和条約発効により沖縄が米国施政権下に入る
昭和47年(1972年)
　5月15日 沖縄の復帰